

春季連絡協議会

5月22日（水）に、高知県教育研究所春季連絡協議会に参加し、児童生徒理解についてのお話を聴いてきました。講師は立正大学 心理学部 臨床心理学科 教授 鹿嶋真弓 先生でした。以前高知大学にもおられた先生なので、ご存知の方も多いのではないでしょうか。

具体的な事例も踏まえながらのお話で、心理学の観点から様々な気づきを得ることができましたが、内容は指導主事や研修指導員など、研修を主催する人を対象としたものだったので、ここでは現場の先生方がすぐに使える内容に絞ってお伝えしたいと思います。

【学校現場で役立つカウンセリング理論】興味があるものは調べてみてください！

解決思考ブリーフセラピー

問題解決のカギは本人が持っているという前提のもと、小さな変化を起こしていくことで原因の把握よりも解決に向けてアプローチしていく手法。次のルールに基づいて働きかけをします。

～ルール～

- ① うまくいっているなら、変えようとしない。
- ② 一度でもうまくいったら、またそれをする。
- ③ うまくいかなかったら、違うことをする。



応用行動分析

行動の前後を分析することで、その行動の目的やきっかけを明らかにし、前後の環境や個人に働きかけることで問題行動の解消を目指す手法。

例) A:説明が長くなる→B:自分の好きなことをしに行く(離席)→C:楽しかった

楽しいので「離席」という行動が強化される。Aの環境に働きかけてBの行動を解消する。

論理療法

出来事そのものではなく、出来事に対する解釈こそが悩みをもたらすという考えのもと、個人の認知の変容を目指す手法。対話を通して出来事について非合理的な捉え方をしている部分を見出し、合理的な認識へと変化させていく。

交流分析

個人の中にある自我状態を3つ（親・大人・子ども）に分けて分析する「構造分析」、自律的な交流ができるようにつながりを分析する「やりとり分析」、悪循環に陥る対人関係のパターン（ゲーム）を分析することで脱却を図る「ゲーム分析」、幼い頃に養育者から受け取ったメッセージに基づいて描かれた否定的な人生脚本からの脱却を目指す「脚本分析」という4つの分析がある。

【学校現場で役立つ具体的方法】

ブリーフミーティング（ホワイトボードやタブレット上で記録しながら進める）

今あるリソース(資源)を生かし、次なる一手(ゴール)に向けて30分でアプローチする会議。

- ① ルール確認(解決志向・守秘義務・時間設定)

② 事例報告→リソース探しの質問→ゴール設定

③ 解決のための対応策(質より量!)→自己決定

蓄積データ

今まで無意識であった自分の指導行動について、良い結果となったか否かを客観的に分析し、改善していくシステム。これを蓄積することで、うまくいったことが広がり、うまくいかなかったことに対しては別の方法が検討できる。(解決志向)

どのような状況・状態で⇒どうしたら⇒どうなった (うまくいった…+, 変化がなかった…±, うまくいかなかった…-)

褒める⇒承認へ

存在承認…見る・挨拶・名前を呼ぶ・肯定的な思いを伝える

行為承認…事実を伝える・励ます・感謝を伝える

結果承認…褒める・賞を与える

構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニング

アングーマネジメント・アサーショントレーニング

教育研究所運営委員会

5月23日(木)には、須崎市教育研究所 前期運営委員会を行いました。この会は教育研究所の適切な運営のために、所長の諮問機関として設置されています。運営委員長は、昨年度に引き続き浦ノ内中学校の西森校長に決定しました。



研究教諭からは今年度の研究の方向性を説明しました。大まかな内容は以下の図の通りです。

複線型の授業

- ・個別最適な学び $\rightleftharpoons$ 協働的な学び
- ・効果的なICT(クラウド)活用

不登校・不登校傾向対策

- ・児童生徒理解
- ・生徒と繋がる、生徒を繋げる

心理的安全性

- ・話しやすさ、助け合い、挑戦、新奇歓迎の4つの要素を取り入れる
- ・「無知だと思われる」「無能だと思われる」「邪魔だと思われる」「否定的だと思われる」かもしれないという4つのリスクを排除する

今のところ6月下旬頃から朝ヶ丘中学校の第2学年をお借りして、複線型の授業の実践を行う予定です。まだまだ不完全なので、様々なご意見もいただくことで、複線型の授業のイメージの解像度を上げていきたいと思っています。授業の公開につきましては、朝ヶ丘中学校と相談の上ご案内させていただきます。よろしくお願いいたします。